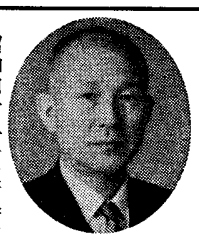
広報こすど

発行所　小須戸町公民館
発行人　宮崎純能
発行所　毎月1日
1部5円

健康的な人間と町の発展を望み

町長退任にあたり



昭和四十二年の新春をむかえて、おめでとうございます。

昨年末までには、町の施設の大方の事業工事を竣功させていただきまして町民各位の特別なるご協力とご援助を賜りましたことにつきまして、深く感謝を申し上げるしだいでございます。

顧りみますと私はさる昭和三十八年五月に、小須戸町長に就任以来、三年八ヵ月、その間新役場庁舎の建築をはじめ、中学校々舎の増築など五十カ所にわたる工事ならびに事業を施行してまいり総額にして約四億円程の工事を仕上げたことになりましたが、これが将来小須戸町の源動力となって、小須戸町の発展の基礎造りとなることを、望むものであります。

幸いに昨年末に新役場庁舎前の、新設十六米道路が開設され、これを中心にしての警察庁舎、消防署、武道館等町機関の集約が完成し、今年からは理想的な小須戸町が新発足することとなりましたことは、私のもっとも喜びとするところであります。

なにとぞ今後一層の町民各位のご協力によって小須戸町が、飛躍的発展にむかえ、小須戸町住民のみなさんが、我が郷土繁栄に満足されることの一日も早からんことを念願するものであります。

今年もまた小須戸町民各位のご健康と、ますますご発展をお願い申し上げて、退任のご挨拶といたします。

町道除雪計画成る

小須戸町は積雪寒冷地域における道路確保に関する特別措置法の趣旨に基き、先般嘱託員会議を開き今冬の道路除雪計画等雪害対策について協議した。その計画概要は、重要幹線路の除雪はあらかじめ定める順位により、町のブルドーザーのほか、状況により、業者所有機械の協力を求め無雪化をはかる。

幹線以外の道路については、関係地元住民の協力を求める、また排雪は状況により運搬車等で信濃川の捨場、その他に運ぶこととなる。以上は地元関係者の協力なくして達成できないことは勿論であるが、つぎの事項については特に協力方を要望しております。

一、道路ぞいの家屋の雪下しは道路除雪作業に重大な関係があるので、県および町の除雪作業にあわせて一斉に実施する。

二、除雪後の道路に雪を捨てないこと。交通事故の原因となるので注意すること。

三、側溝および排水路に雪を捨てないこと。氾濫、溢水の原因となるので注意すること。

四、道路上の物件放置は交通事故の原因となることが多い。特に降雪期間除雪作業に支障が多く、さらに損壊の恐れがあるので放置物件のないよう整理すること。

五、自動車が故障により動かなくなった場合は、道路端におき、さらに標識をつける等位置を明確にしておくこと。

毎月第三日曜は家庭の日です

一家で楽しく

羊の年にちなんで

「私の年です」

羊はもと野生の獣で、人類が飼養し始めたのは歴史前大古のことであります。

スエス湖上生活時代の遺跡から遺骨が発見され、降ってバビロン時代、アッシリア時代にいたると浮彫の像などが認められるのである。東洋においても古い歴史を有し、支那人は古代財産の標準を羊においたほどであるが我が国に輸入されたのは推古天皇の七年に、百済より二頭を献じたるを初めとする。との記録はあれど、広く世に知られるようになったのは、後代支那人あるいは、葡萄牙人によって、持ちこまれたというのである。

また羊の種類におよび「アルガリ」「チベットアルガリ」「バルバリー」群集で生活をなし、木葉苔類を食し、日中は山に入り休息するが、捕食、睡眠時には、つねに見張番をおいて警戒するという動物である。

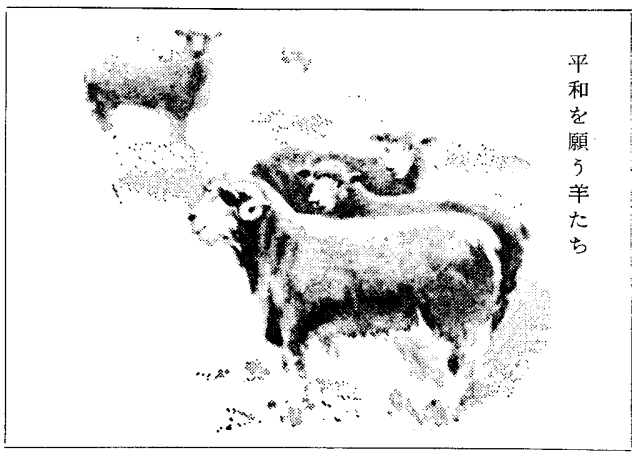
角の大きい四つ角羊はその名の示すごとく、四本の角を有し、支那、アイスランド、アフリカ南部等に産する。一番小さいのはカメルーンで肩の高さは一尺五寸程、毛の長さは一寸位で、顔面の黒いのは、クロッラ羊で「四つ角羊」「クロッラ」「メリノー」などはその主なものである。

アルガリーは現在も生存中の羊で、最大なるものでバミール高原に棲息し肩の高さが三尺七寸から四尺位に達する。第十三世紀の昔、彼の著名なるイタリーの旅行家、マルコポーロが中央アジアにおいて、巨大なる羊を発見したというが、すなわちこの羊のことである。

アルガリーはアルタイ山の山地に住んでいる。

羊の効用は毛用、食用を主として、品種にはいろいろあるが、毛用としてもっとも良いものは「メリノー羊」で、毛質柔軟上等品としております。原産地はスペインで、同国では春羊を連れて、南方の山地から中央平原へ移り、秋には南方へ帰る。西暦千八百七十三年に仏蘭西王「ルイ」第十六世が、牧場を作ってこの羊を飼育することにより綿毛が多く、良質のものに飼育されて、さらに今から約百年以前にいたってはじめてオーストラリアへ輸入され、今ではオーストラリアより、日本へも優等品として輸入される。肉用としてはイギリスのサウスダウン羊がもっともとうとばれ、毛は短かく、肉質は最良のものとされております。

また羊をめぐる民話は数多くありますが、最も多く登場してくるのは、キリスト教の中のようです。「神の小ヒツジ」など「私は良いヒツジ飼いである」など、羊に対する信頼の関係については、神と人との間の説明にしばしばもちいられております。このような羊の年であります。みんなで今年も、平和な年でありたいと願いながら—。



平和を願う羊たち

考えるおかあさんに

生活の変化に対処する

新しい生活処理の方法

最近マスコミをとおして家庭生活にも、経営学の方法をとり入れた生活技術や、整理学などという新しい生活処理の方法が家政学者とは別の立場の男性たちから説かれ、いままでの家事・家政の考え方とはちがった面から、さまざまな知恵が家庭婦人につぎこまれています。これは好むと好まざるとにかかわらず、主婦の受け持つ家庭内の仕事が、肉体労働より頭脳労働により比重のかかる傾向になってきたためだと考えてもよさそうです。ここ十数年の私たちの生活をふりかえってみると、むかしの人が十年間に経験したことを、一年で通り過ぎてきたほどの思いがします。

衣食住という具体的な生活の場にも、つぎつぎと目新しいものが登場し、それを使いこなすためには、祖母や母から受けついできた知識では用がたりなくなってきました。買物ひとつにしても、むかしの値切りじょうずや、足を棒にして安い物をさがし歩く買物じょうずだけでは通用しなくなりました。商品知識をもち、わが家での利用価値を見きわめて、買う判断力がむしろたいせつな要素になってきています。

貿易の自由化は、商品選択に、いっそうむづかしさを加えています。私たち日本人の「舶来品」の考え方には、とかく選ぶよりもさきに「いいもの」ときめてかかる危険があります。そしてまた、世界中の商品の市場となった日本に今後はこれまで以上にさまざまな新しいものが、よそおいをこらして並ぶことを考えると、消費面を主として受け持つ主婦にとっては、選ぶ基準をしっかりとも つことが、これからの生活をささえる何よりも大きな力になってゆくだろうとも考えられます。

選ぶ基準は「わが家での利用度」

もちろん選ぶ基準になるのは、「わが家での利用度」です。私たちは、電気製品とか、家具のように、ある程度まとまった金額の買物をするときは、品選びにも買う時期についても、かなり綿密な検討をしますが、千円くらいまでの出費で手にはいる品物については、とかくムードにひかれて、ひよいひよいと買いこみがちです。そして買ってはみたものの、自分の家ではめったに使わないという品をかかえこんで、整理に追われます。

めまぐるしいテンポで移り変わってゆく生活のなかで、いつも現役の主婦として暮らすには、新しい勉強が必要なのですから余分なもの、むだなものをかかえて、整理にエネルギーや時間をとられる愚は、極力避けなければならないでしょう。

そのためには、はっきりとした目的のあるもの以外は、不要なものと考えて、買いたい気持ちをおさえることも必要ですし、反対にかなり高価でも、これがあったら家事労働がほんとうに助かるとか、経済的にもプラスになると思うものは、月賦を利用してでも早めに買うくふうもしなければなりません。物を大事にしてただとっておくことは、考えてみれば整理するよりも、はるかにやさしく、ことに私たち日本の女が、しつけられてきた生き方から考えれば、だれにでも容易にできることです。むしは自分の生活には何がたいせつなのかを、選び分けてゆく目を身につけるのは、ほねのおれることです。いいかえれば、頭の回転力がこれからの家政の担当者にいちばん求められてゆくと思うのです。その頭の回転力は、買物ひとつにとどまらず、家事処理からこどもの教育、家庭の人間関係の調整にいたるまで、すべてをスムーズにとりしきってゆくことにもおよんで、新しい家庭づくりに役だつと思います。

ゴキブリ亭主の手料理

＝料理教室＝

料理を覚えると一度はやってみたくなるもの。とかく旦那芸では、あと始末で女房が泣く。となるが、ゴキブリ亭主とは台所で、ゴソゴソと料理のまねごとをする男をいうそうだ。

料理をはじめる前には油がはねてもいいように足もとに新聞紙を敷き、皿小鉢も最小限にとどめる。かねのハシ、コロモをとくハシ、揚げ玉をすくう網それを入れるカン、フライパンの上に、モチやき網をのせてこれで油を切る。火をつけてからコロモにかかる。

水は冷蔵庫で冷やしたもの。玉子と水をアワタテでといてたれに粉。料理の本にはあまりかきまぜるなというが、そんなにビクつくことはない。ドロリとさせてその上にもう一度粉をポンとのせる。

ネタを粉が生まのところにちょんとつけてからドロリの中にひとくぐりさせて鍋へ。ガヤガヤ、プッンプッンと音がたつようなら火が強い。グチュグチュがよろしい。ゆっくりと、いそがしく揚げる。矛盾するがそうとしかいえない。

カキ揚げなら別に玉子だけをといて、エビ、貝柱を小鉢に入れ、といた玉子と、コロモを加えてかきまぜる。油の上に寝かせるように落とす。鍋を傾けておくと、この種の作業はやりやすい。なぎさから入れて沖であげる。ガスのせんにはいつも注意すること。野菜を入れると熱が落ちる。油をよくきって食卓へ、女房亭主が作っていると、落ちつけないと全部終わるまで食べたがらないが食べものは、熱いうちが命、遠慮せずに食べることが、作るゴキブリ亭主もよろこんでくれると思うが。

昭和四十一年度 米の多収穫競作会

本県農業の中心で主要な地位をしめる稲作の経営合理化、収量の増大、栽培技術の向上をはかることは極めて重要なことである。よって米生産増強対策事業の一環として多収穫技術を向上して収量を高めるため、県下各市町村で米多収穫競作会が実施された。

本町米多収穫競作会の成績つぎのとおり

個人の部

一位　斎藤伝松
羽黒五九四kg

二位　長沢修三
小柳克彦
白井重栄

三位　須佐弥之助
上田兵四郎
五十田昭吾
川瀬定

団体の部

一位　新保支部
二位　横川浜支部
三位　小向支部

新年を楽しくすごそう

百人一首で三月頃には大会を

人間一年中多忙なのでありますが、正月の三カ日くらいは楽しく、我が家でというのが本心ではないのでしょうか。

そこで今年は一月に「百人一首」で、楽しんでもらおうと思っていたのでありますが、衆議院選やそのごの地方選で、開催期日がとれませんので、三月中にでも開きたいと思うのであります。

以前小須戸町では、「百人一首」の人口もそうとうあったのですが、ここ数年、この種の会や大会など開かれなかった関係で、近年すいたいしてまいりましたが、ここで今年より、この「百人一首」の会を作り、これを中心にして、正月をもっと日本的にするようにみなさんで、作りあげていただきたいと思います。

また今年は、前に地方選挙などで、大会を開く期日がないために、三月中に開く予定でありますので、町民のみなさんふるって、ご参加くださいますよう、お知らせいたします。またこの機会に「百人一首」の会を、作る計画もありますので、ご希望のみなさんがありましたら、町公民館へご連絡ください。

（電話は二七〇番、有線八〇六番）

めいめいシリーズ

言葉つかいに一言

「モシ〳〵俺の免許証が出来ているか本署へ聞いてみてくれ」「俺じゃわかりませんがどちらさんでしょう」こんな馬鹿馬鹿しい電話、有線がさいさいかかってくる。電話はお互いに顔や姿が見えないだけに、なおさら言葉つかいに注意し、相手方によい感じをあたえるよう努力しなければならないことは言うまでもないが相手方に対し、自分の名前をハッキリ告げることはエチケットとして当然のことと思う。名前も言えないような電話には責任をもって応対できかねるし、後日の連絡にも事かくことの多いことを私を含めて町民のみなさんはもう一度考えなおしてほしいものです。

謹賀新年

あけまして、おめでとうございます。今年もよろしくお願いします。

昨年は公民館事務室の移動等により、広報こすども発行回数が少ないようでありましたが、今年は、つとめてスムースにしたいと思いますので、ご協力くださいますようお願いいたします。

昭和四十二年元旦
小須戸町公民館
「広報こすど」
編集部一同

オートバイに責任保険を

原動機付自転車にも強制保険が

バイクも強制保険に入らなければ走れません。

さる六月二十九日自動車損害賠償保障法が改正されました。

この法律では、自動車が人身事故を起した場合の損害賠償能力を確保するために、自動車を強制保険に加入させていますが、今度の改正で一般にバイクと呼ばれている原動機付自転車も強制保険の対象となり、昨年十月一日からは、強制保険に入っていないバイクは使えません。この強制保険を扱っているところは「海上火災」または「火災海上」の看板を掲げている損害保険会社およびその代理店です。保険料は離島（橋、隧道またはフェリーボートによる本土との間の交通又は移動が不可能な島）以外の地区に使用の本拠を有するものについては二、五四〇円、離島に使用の本拠を有するものについては一、九一〇円となっています。またバイクに強制保険をかけますと、保険証明書とステッカー（三五糎平方の薄紙）が渡されますが、保険証明書はバイクの荷物入れや工具入れに入れて、バイクを使うときは常に備え付け、またステッカーはそのバイクに貼っておかなくてはなりません。貼る場所は、小須戸町が交付するナンバープレートの左上部ですが、ナンバープレートにステッカーを貼る余白のない場合は、車体の前面の見やすい場所です。保険に入っていないバイクを使ったり、証明書を備え付けていなかったり、あるいはステッカーを貼っていなかったりした場合は、処罰されます。

賠償金は一五〇万まで

この強制保険に入っていれば万一事故を起したときも被害者に対して支払った損害賠償金のうち、死亡なら一五〇万円まで、傷害なら五〇万円までは保険会社から保険金として支払ってもらえます。

また今度の法律改正で強制保険に代わるものとして農業協同組合の行なう責任共済事業がはじまりましたので、農協組合員の方は、軽自動車とバイクに限り、この責任共済に加入すれば強制保険に加入しなくてもよいことになっています。責任共済の内容は責任保険の場合とまったく同じです。

なお強制保険および責任共済では被害者が直接保険会社または農協に保険金相当額を請求する方法もあります。それでも足りない分は加害者に請求できます。

違反車事故は国で補てん

また、ひき逃げ事故の被害者や、相手が強制保険加入義務違反の無保険車のため保険金をもらえない被害者には、国がその損害を補てんする制度がありますから、あきらめずに請求してください。

請求の手続きは近くの損害保険会社または農協の窓口でしてください。

また小須戸町で交付しているナンバープレート（原動機付自転車第一種、第二種甲、第二種乙、農耕作業用自動車）の分について、もし廃車されますと、町長宛に廃車申請書を提出すると同時に、保険会社または農協責任共済の方へ保険解約の手続きをしなければなりません。

その際必要となります廃車証明書にかわる廃車申告受付書を役場税務課で発行しておりますからご利用ください。

手数料は無料です。

税務課

充分な給水にご協力を

水道管にも冬支度を!!

30秒手洗いを励行しよう

本格的な冬も、もうそこまで来ており、みなさんには冬支度に忙しいことと思います。

毎年のことですがこの冬期間における水道管の凍結、破裂にはみなさんより充分注意をいただきこれらの事故を未然に防止する一方、万一被害を受けた場合は最少限にとどめるようご配意願います。

水道管の凍結

◎気温が零下四度以下になると水道管が凍結します。

特に屋外の配置、屋内でも北向きの所、風当りの強い所では零下四度以内でも凍結します。

◎水が氷結するとその容積が増加するので破裂する場合があります。

凍結防止の方法

◎水道管の冬支度には水道管の露出箇所に毛布、毛製の布切れなどを管に巻きつけ、更にその上に水気を通さぬためビニールテープを巻付けるとか、藁縄でグルグル巻にし、水気を含んだときは取替える等注意を払うこと。なお当町では防寒装置として、水道管一、五米分の保温資材を実費（二二〇円）で希望者に収付けますからご利用ください。

◎特に寒さを感じたときは、水道栓を全部締切らないで水の静止を防ぐよう配意ください。

凍結した時の取扱順序

1. 熱湯とタオル（雑巾）を用意する。
2. 蛇口の栓を全開する。（凍結して栓が開かないときは、タオルを当て熱湯をそそぐ）
3. 蛇口よりタオルを当てて熱湯で順次水道管内の凍結を解いていく（この場合凍結している箇所の中間よりおこなうと破裂する度合が多いので注意する）

破裂の場合

水道指定工事店か、水道部へ急報願います。この場合破裂箇所にタオル等で強く巻き付けて置くと水が飛び散りません。

破裂修理費

積雪がひどく車の運行ができないときの修理費は左記により頂戴します。（一ヶ所当り）

1. **接合費**

ビニール管の場合
径十三粍　四二四円
〃二十粍　四三〇円
〃二五粍　四八二円

鉛管の場合
径十三粍　四五五円
〃二十粍　四七二円

2. **資材費**

使用管種、長さにより実費をいただきます。

ガス水道課

小須戸警察署に有線が入りました。

番号は　六〇五番

ゆだんにつけ込む冬場の赤痢

—三〇秒手洗いを励行—

このところ県下各地において集団赤痢が続発しております。

本町においても既に三名の患者が出ておりますが、昭和四十年の十二月から四十一年の一月にかけて赤痢の集団発生に見まわれ町民各位に多大のご迷惑をおかけしたところでありますが、今後共次のことを励行し、再び赤痢にかからないよう充分みんなで注意いたしましょう。

◎用便後は身仕度前に使った方の手を逆性石けん液（一〇〇倍）で約三〇秒消毒すること。

◎外から帰った時も必らず逆性石けん液で手を消毒すること。

◎食事前又は何かたべる前にも必らず手を洗い、又洗う習慣をつけましょう。

特に子供には気をつけましょう。

なお、逆性石けん液及び容器のない方は役場で取扱っておりますからお申込み下さい。

価格は、容器と薬液で一セット一三五円です。

確定申告は忘れずに

三月十五日は、昭和四十一年度の確定申告の期日です

確定申告は配当、不動産、事業、山林、譲渡一時、雑所得の合計が一定額以上あった人が申告をしなければなりません。

確定申告は、所得の種類によってそれぞれの計算方法があり、税務署より送られた決算の手引、確定申告の手引等を参照の上、期日までに申告してください。

今年は特に専従者給与の源泉徴収、国税、県民税、町民税の一括申告制度ができて、この三税の申告は一本に統一されましたし、また青色申告者は自主申告に重点をおき従来の納税相談制は廃止してゆきたい税務署の方針であります。そのために商工会では、二月中旬より一ヶ月間、税務署、税理士と連絡を密にして青色申告者の確定申告書の書き方、源泉徴収のやり方等を専門に相談にのることに決定いたしましたので、いつでもご利用ください。

雪道の交通にご用心

○運転する人は

一、とくにスピードを控え目に。

一、チェーンやスノータイヤを必ずつける。

一、急ブレーキは禁物スリップで思わぬ方向に車がむく。

一、エンジンブレーキをきかせることが大切。

一、カーブ、横断歩道、交差点に近づいたらまず徐行、急ブレーキはあてにならない。

一、車間距離はよいか追突しないよう注意。

一、幹線道路では駐車している車に追突しないよう注意がかんじん。

○歩く人は

一、雪道はスリップで車はすぐには止まりません。手をあげて車が止まるのを待って横断することが安全です。

一、横断歩道の近くでは、かならず横断歩道を渡るようにしてください。

○車の使用主は

一、チェーンやスノータイヤをつけさせるようにしてください。

一、長距離運転をやらせるときは道路をよく調べてから出発させることが大切です。

○交通情報にご注意

一、県警本部ではテレビ、ラジオで注意報を出すことにしています交通情報をよくきき安全な運転をするようにしてください。

昭和四十二年度新津高校小須戸分校

入学試験ご案内

一、願書受付
二月四日(土)より二月十日正午まで

一、考査料
三〇〇円

一、入試期日
三月十七日、十八日の二日間

一、試験場
新津市秋葉、新津高等学校にて

詳細については、新津高校小須戸分校（電話六一〇三番 有線二八〇三番）へ照会ください。

年賀スタンプに私は思う

正月が近づき懐しい友御世話になった上司、先輩などに年賀ハガキを一枚一枚心をこめてしたためる時、何時も思うことは……県下いづれの市町村でもそれぞれ名物、名所古蹟などがあるはず。土地の表徴としての何物かをスタンプに彫り込み、全国つづ浦々にごく自然に配達されるであろう年賀ハガキに心をこめて押捺してやったら、頂いた人も懐しさで一杯であろうし、小須戸町のPRの一助にもなろうというもの。

局の窓口に羊年に因んだスタンプのあるのも悪くはないが、しかし公民館か商工会あたりに小須戸町のスタンプの一つや二つ備えつけてムードある年賀状を日本中に配布してはいかがなものなのでしょうか、他市町村をみますと、このようなスタンプを持っているようです。私どもの町でも、この観光の面では、欠けているのではないかと思いますので、この点関係者でお考えいただければ幸いです。

（小林生　記）

お年玉をお楽しみに

—年賀はがきのあとしまつ

今年の年賀状についてお知らせします。今年から年賀はがきの低料金扱いがなくなり、お年玉つき年賀はがき（八円）と普通はがき（七円）と同じようにいつでも使用することができます。以前ですと、年賀期間外ですと一円切手をはって使用しましたが、今年から、七円と八円があり、八円のものが、一円の寄付金つきとなったのであります。

年賀状で住所録を整理

年賀状の交換で、住所の異動や新住居表示制度による新町名、番、号がわかったものは、この機会に住所録を整理して、正しいあて名を控えておくようにしましょう。

住居表示制度の実施によって、住所はそのままでも、新しい呼び方、（街区符号、住居番号）に変わっているものがありますので、とくに注意してください。

お年玉はがきの抽せんと賞品の引換えは

年賀はがきのお年玉抽せんは、一月十五日ですこの当せん番号は、全国の郵便局の窓口に掲示するほか、新聞等に発表します。

今年のお年玉は

一等　ポータブルテレビ十二型。二千六百本（百万本に二本）

二等　トランジスターラジオ十石。一万三千本（十万本に一本）

三等　シーツ十三万本（一万本に一本）

四等　日本工業規格（JIS）封筒セット二百六十万本・千万に一本

五等　お年玉切手シート三千九百万本（百本に三本）

賞品のお渡し期間は、一月二十日から七月十九日までですが、当せんしたかたはなるべく早く郵便局へ当せん番号のはがきを持参して、申してください。

三等以上では当せんのはがきの番号の余白に、受取人の署名か、押印が必要です。

一月の特殊切手

一月二十五日には、名園シリーズ、として発行が予定されております。予定は、金沢の兼六園　一枚　十五円

購入図書

○凍原（ツンドラ）　生田直親
○世相講談　北村鱒夫
○詩と反逆と死　山口瞳　大宅歩
○金環蝕　石川達三
○薔薇の木にバラの花咲く　芝木好子
○青空娘　源氏鶏太
○戦艦武蔵　吉村昭
○失われるのは鎖だけ　地主金悟
○湖の琴（うみのこと）　水上勉
○塵々集（ちりちり）　池田弥三郎
○青い殺人者　石原慎太郎

忘年句会

小須戸　俳句同好会

戻り来し妻も厨に息白し　竜朗
耐えること日々培うて冬銀河　芳人
初雪に暮れて残業の灯は明し　杏水
庭の花乏しくなりぬ冬の蝶　碧水
ストーブや話十字にぶつつかり　山葵
実を持たぬ庭木密柑や冬の雨　虚秋
閉店のバイクしまうに雪の星　かしお
あの畑この畑へと着ぶくれて　香月
冬の夜の底より響く雷一つ　渓灯
病人の見て居る障子張りにけり　喜雨
膝の冷え煖炉燃え足す編集室　旺資
妻病みて診断おそき師走哉　流水
○影の旅行者　黒岩重吾
○父と子の生き方　大宅壮一
○あゝ同期の桜（かえらざる青春の手記）　毎日新聞社
○徳川の夫人たち　吉屋信子
○おれも浮世がいやになったよ　今東光
○何をたよりに生きようか　邱永漢

税だより

このたび税法の改正により、身体障害のうち下肢又は体幹に障害を有し歩行が著しく困難な者が所有し、かつ、もっぱらその者が運転する軽自動車等（一台に限る）に対しては軽自動車税を減免することになりましたので該当者は役場税務課窓口で、身体障害者手帳および印をご持参の上申請してください。申請書は役場にあります。

訂正のお詫び

広報こすど第一五九号中、一面で、「町祝賀会を盛大に」の記事中、開催期日が、四十一年一月一日とありましたが、四十二年一月一日のまちがいでありますので、お詫びして訂正いたします。

広報こすど編集部